

いま あす
～現実をみつめ、未来を紡ごう～ 「生きる力」を育む「学び」の創造

府立人研通信

大阪府立学校人権教育研究会
第 10 号
2020 年 3 月 24 日発行

第3回 オープンセミナー「多文化教育」チーム企画・
第4回 オープンセミナー「進路調査・奨学金」チーム企画の報告

こんにちは。府立人研事務局です！

府立人研通信 第 10 号では、第3回オープンセミナー「多文化教育」チーム企画、
第4回オープンセミナー「進路調査・奨学金」チーム企画のご報告をさせていただきます。
いつもありがとうございます。
また、お会いできるのを楽しみにしております。



第3回 オープンセミナー「多文化教育」チーム企画

外国にルーツのある子どもたちの現状と課題

1月10日(金) 府立柴島高校 2階 会議室

講師: 李慶姫さん

今回は、外国にルーツのある子どもたちの現状と課題について、スクールソーシャルワーカー (SSW) の視点から、SSW・社会福祉士・通訳案内士の李慶姫さんよりお話を伺った。

一括りに「外国にルーツのある子」といっても、生い立ちや環境・文化によって、「渡日生」や「多文化家庭の子」など様々な呼称があることから始まり、彼らが抱える問題と課題が非常に複雑で難しいこと、SSW が教職員チームの一員としての位置付けで彼らの支援に携わっていることをお話しいただいた。

李さんが出会った子どもたちの事例と支援の経験談もあり、「生活言語(生活に必要な語学力)」がある程度クリアできていても、「学習言語(学習に必要な語学力)」が追い付いていない場合、支援の必要なと判断されがちである事実などを知ることができた。

外国にルーツのある子どもには、言葉の問題、文化の違い、成長や発達段階、マイノリティの立場などから多くの課題があり、彼らや保護者と関わり支援をする際には、幅広い視点や深い知識を備えておく必要があることを共有すること

ができた。

講演後の質疑応答では、教職員と SSW の連携方法や勤務校での対応で困った事例など様々な質問がなされた。参加者は、それぞれの質問への返答を通じて、一人ひとりの子どもへの対応の幅を広げることができた。また、マジョリティの立場で行いがちな決めつけにも気を付けたいという点も挙げられた。例えば、「あの子はひとり親だから」という言葉に、ひとり親家庭に対するマイナスイメージでの決めつけはないかということである。教職員が、各家庭のプラスの要素を大切にすることで、前向きに取り組めるのではないかという話が印象的であった。

今回のセミナーは、教職員が外国にルーツのある子どもたちについて知識や関心を深め、それぞれの学校で更なる支援を実践していけるきっかけとなる、充実したセミナーとなった。



奨学金担当者 交流会

～日本学生支援機構をはじめ、各種奨学金について～

2月14日(金) 府立柴島高校 2階 会議室

今年度初めての奨学金担当者交流会が行われた。入試シーズンが始まった慌ただしい時期の開催にも関わらず、府立学校教職員だけでなく、私立学校や専門学校からも参加者が集まった。

交流会では、今年度の奨学金制度に係るスケジュールをもとに業務を思い出しながら、参加者同士で情報共有や意見交換が行われた。そこであがった話題について、以下に列挙する。

- ①日本学生支援機構(以下、JASSO)への連絡がつながりにくい。また、折り返しの電話を夜遅くまで待った日が何度かあった。
- ②学校から JASSO に書類を提出したが、届いていないという連絡が保護者に対してあり、保護者から学校に問い合わせがあった。
- ③JASSO から書類が揃っていないと言われたが、実際に不備はなく、先方の確認ミスだった。
- ④スカラネット入力で、生徒に記入させづらいと感じる項目がいくつかあった。
- ⑤進学意欲をはかるレポートをどのように課しているか、他校の状況を知りたい。

- ⑥奨学金制度の対象になっている学校が想定より少なく、希望する学校が対象になっていなかったために進学を諦めた生徒がいた。
- ⑦奨学金の採用決定通知の原本が届かず、つなぎ融資を受けられなかった生徒がいた。
- ⑧(2月14日現在)未だに選考保留のまま、結果を待っている生徒がいる。

〈各学校で工夫していること〉

- ・記録として残すため、連絡手段に FAX を使うようにしている。
- ・スカラネットの入力は、生徒が個別にできる場を設けるなどの配慮をしている。
- ・生徒との書類のやりとりは、個別の専用袋を作成して行っている。
- ・つなぎ融資を利用できなかった生徒に関して、進学先に直接相談をした。

制度の大きな変更により、各学校の奨学金担当者が不安を抱えながら業務にあたっていることが改めて確認された。「担当者だけがする」のではなく、生徒の進路保障の要の1つとして「学校全体として取り組む」必要がある。

◆◆◆編集後記◆◆◆

第3回オープンセミナーでは、SSWという、私達教職員と別の視点から生徒を支援してくださっている“心強い協同者”からのお話をうかがいました。李さんが出会ってきた子どもたちや学校との連携についてお聞きすることができ、チームで生徒たちを見守る大切さを感じたセミナーとなりました。

新型コロナウイルスの影響により、休校・自粛ムードのストレスを感じたり、家庭環境に大きなダメージを受けている子どもたちがいます。子どもたちに寄り添って、いったい自分に何が出来るのか、自問自答の春がやってきます。



府立人研 大阪府立学校人権教育研究会

〒533-0024 大阪市東淀川区柴島 1-7-106
府立柴島高等学校内

送便の場合は「府立人研」とお書きください。

TEL・FAX 06-6324-3822 (直通)

お電話の場合は、火曜日をお願いします。

E-mail furitsujinken@nifty.com

お問い合わせは、なるべく E-mail をご利用ください。

URL <http://furitsujinken.in.coocan.jp/>